

やまぐちっ子の学力向上に向けて

令和8年2月

やまぐちっ子の学力を育む検証・改善委員会

学習指導要領の目標を着実に達成していくためには、教育課程を社会に開き、社会総がかりで子どもを育む中で、「主体的・対話的で深い学び」を実現させ、子どもたち一人ひとりのキャリア形成と自己実現を図っていくことが大切です。また、個々の価値観や背景が多様化し、情報通信技術等の発展が予測困難な変化をもたらしている現代においては、一人ひとりが自らの人生を舵取りできる力を身に付け、民主的で持続可能な社会の創り手となることが重要であり、子どもも大人も、他者との関わりを大切にしながら、生涯にわたって主体的に学び続け、相互に認め合える社会を実現する必要があります。

こうしたことを踏まえ、ICTや人工知能（AI）といった先端技術の強みを生かしつつ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させる中で、子どもが自ら課題を設定し、友達や教職員、地域の方等の多様な他者と協働することで、探究的に課題解決を進めることや、情報の確からしさや有用さについて判断するといった経験を積み重ね、複雑化する諸課題に主体的に対応できる資質・能力を育成していくことが重要であると考えます。

令和7年度の全国学力・学習状況調査における本県の結果からは、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている児童生徒が、全国と比較して多い一方で、自分で学び方を選択したり、考え工夫したりすることや、家庭における学習習慣などに課題が見られ、主体的に学びを調整し、粘り強く学び続ける力を児童生徒に育てていくことが求められます。

また、多くの学校において、国や県が実施する、学力に関する調査問題等の正答率からは、学力の二極化が見られ、適切な評価や支援も必要です。

さらに、いじめ等の問題行動が多様化・複雑化するとともに、不登校児童生徒も増加傾向にあるなど、教育的な支援を要する児童生徒への対応は喫緊の課題となっています。そこで、誰一人取り残されることのない学びを保障し、学びが途切れることなくつながっていく学習指導を行うことにより、子どもたちの学びの不安が解消されるよう努める必要があります。

これらの課題を解決し、これからの時代に求められる資質・能力を育成するため、「学校の『組織力』の充実」、「教員の『授業力』の向上」、「学校・家庭・地域の『連携力』の強化」の3つを方針とし、実現可能性を確保しながら、重点を明確にした取組を進めることが重要です。さらに、その取組を充実・深化させる上で、コミュニティ・スクールの連携・協働体制やICT環境を生かすことなどの視点が必要であると考えます。

以上のことから、「やまぐちっ子の学力を育む検証・改善委員会」では、全国学力・学習状況調査をはじめとした各種調査の結果等を手がかりとして、学習指導要領の趣旨を踏まえた取組を一層充実させるとともに、キャリア教育と地域連携教育を一体的に推進することにより、子どもたちが地域との関わりの中で自己の在り方生き方を考え、生涯にわたって主体的に学び続けることができるよう、次の提言をまとめました。

＜3つの方針＞

- 学校の「組織力」の一層の充実
- 教員の「授業力」のさらなる向上
- 学校・家庭・地域の「連携力」の一層の強化

＜重点取組＞

- 「やまぐちっ子学習プリントＣＢＴ」を加えた「やまぐち学習支援プログラム」等を全校体制で効果的に活用し、家庭と学校の学びの好循環を創出するなど、個々の実情や背景に応じたきめ細かな学習指導を充実させること
- 山口県学力定着状況確認問題と全国学力・学習状況調査を活用した年間２回の検証改善サイクルの徹底や、ＣＢＴによる採点システムを活用したスピード感のある情報提供等、各学校による結果分析、特に誤答分析に基づいた課題の焦点化や課題解決に向けた組織的・継続的な授業改善の取組を促進すること
- 資質・能力を育成する授業を実現するため、単元（題材）や１単位時間の授業について、「めざす子どもの姿（「引き出したい振り返り」等）」から考えることで、計画的に評価の場面を設定し、子どもの学びの成果を見取り、「指導と評価の一体化」を図ること
- めあてをもつこと、多様な他者と協働しながら試行錯誤すること、表現すること、振り返りをする事等、探究的に学ぶ力とそのプロセスを重視し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」を実現できるよう、授業力の向上を図ること
- 児童生徒参画型の「学力に関する熟議」を通して、学校・家庭・地域の人々が「願い」をもって教育力を発揮するとともに、子どもたち自身が学びの主体者としての自覚をもち、主体者意識をもって「思い」や「願い」の実現に向かって行動できるようにすること。
- 学校で学ぶことと社会とのつながりを意識し、キャリア・パスポートを活用した体系的・系統的なキャリア教育を推進することで、子どもが自己の将来に夢や目標をもち、一人の社会人として自立できるよう、自分にふさわしい生き方の実現に向けて主体的に学ぶことができるように努めること

＜取組を充実・深化させる視点＞

- 「コミュニティ・スクール」の強みを生かし、学校・家庭・地域の人々が子どもたちに「願い」を伝える機会があるか。
- 学校・家庭・地域の人々が協働し、「学校・地域連携カリキュラム」の更新、改善を行うなど、カリキュラム・マネジメントを組織的に推進しているか。
- 家庭と学校の学びの好循環の創出により、子どもたちが誰一人取り残されることなく、主体的に学ぶ体制をつくっているか。
- 子どものロールモデルとなるよう、教職員自身が探究的に学ぶ意欲やキャリアステージに応じた研修を計画・実践しているか。
- 学校教育の基盤的なツールとして、ＩＣＴを利活用しているか。

本提言をもとに、各市町教育委員会との連携強化を進めるとともに、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創出するという目標を学校と社会が共有し、学校・家庭・地域が一体となった取組が一層推進され、子どもたちがふるさと山口の創り手として成長していくことを期待します。